

# 市民協働事業 相互評価シート

## 市民協働事業の概要

事業名称	とつか区民活動センター運営事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか	
	行政	横浜市戸塚区	
事業の目的	市民活動、生涯学習活動及びボランティア活動の支援を通して、市民の理解と参画のもとに、区民力の向上と豊かな地域づくりを図る。		
事業の内容	<p>団体と行政が協働でとつか区民活動センター及び戸塚区役所3階情報コーナーにおいて次の事業を実施する。</p> <p>(1) 活動団体のネットワーク化</p> <p>(2) 活動の支援</p> <p>(3) 地域・利用者の声をセンターの運営に反映させる仕組みづくり</p> <p>(4) 場の提供</p> <p>(5) 情報の提供</p> <p>(6) 企画事業の実施</p>		
役割及び責任分担等	協働契約書第8条の規定に基づき、次に掲げる役割を分担し、その役割についてそれぞれの責任で事業を行う。		
	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	受託者・委託者が共に果たす役割	<p>1 事業運営に関する情報共有</p> <p>2 定期的な共同会議の開催</p> <p>3 第三者（利用者・事業運営評議会等）の意見や提案についての協議・検討</p>	
	事業全般に関すること	<p>1 事業への市民認知度を上げるための広報活動等</p> <p>2 相談スタッフのスキルアップを図るため、スタッフ間の情報共有及び研修機会の提供</p>	<p>1 認知度を上げる広報活動等への協力</p> <p>2 スタッフへの研修情報提供</p>
	活動団体のネットワーク化	<p>1 市民や団体同士が交流する機会や場の提供</p> <p>2 区内、市内の施設や団体等とのネットワーク構築</p>	<p>1 関係機関との連絡調整</p> <p>2 ネットワーク構築及び推進に必要な情報提供</p>
活動支援 (相談・コーディネート等)	<p>1 適切な相談対応により市民ニーズや課題を把握</p> <p>2 把握したニーズや課題に応じて次の事項等を行うことによる市民の課題解決の手助け</p>	<p>1 市民活動支援のための補助金等の情報提供</p> <p>2 市民ニーズや課題解決に必要な情報を受託者とともに的確に把握し、事業運営に反映</p>	

		(1) 情報提供 (2) 適切な機関や人につ なぐ (3) 活動団体の立ち上げ (4) 新たなしくみの構築	
	場の提供（会議室 やミーティング ルームの提供）	1 わかりやすく、利用し やすいルールづくり 2 利用しやすい雰囲気づ くり	1 施設の利用方法等に ついて受託者と協議 し、方針決定
	情報の提供	1 市民活動等に関する情 報をより多く収集し、市 民や行政に提供 2 広報紙の発行 3 ホームページを開設 し、市民活動等の情報提 供	1 区広報紙面の確保 等、広報機会の協力 2 行政にかかわる情報 を受託者に提供、共有 し、事業運営に協力
	企画事業の実施	1 インキュベーション事 業の実施 2 ネットワーキング事業の 実施 3 エンパワーメント事業 の実施 4 ICT 事業 5 その他活動支援につな がる事業の実施	1 事業実施支援
実施期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日		

記入日	令和 5 年 4 月 12 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名： 特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか</li> <li>・記入責任者 氏名： 中嶋 伴子 連絡先： 045-825-6773</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名： 戸塚区地域振興課</li> <li>・記入責任者 氏名： 岩崎 広之 連絡先： 045-866-8416</li> </ul>

## 事業評価相互検証シート

### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・協働契約書の仕様書の内容に基づいて年間事業計画を策定し、事業開始前に共有できた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設運営は、状況に合わせて対応することができた。講座やイベントについては、感染拡大防止対策を実施しながらのリアル開催を基本とし、協力して企画実施することができた。
- ・戸塚区地域施設間連携促進事業、ICT 事業、とつかお結び広場等は、企画の時点で事業の目的と目標を明確化してセンターから計画案を提示し、区の協力を得ることができた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・地域施設間連携促進事業のように複数の所管と連携して実施する事業においては、実施に年度計画などの影響をうけるため、年度初めに事業の目的と目標を明確化し担当者間で共有することが必要である。また、引き続き常に連絡をとりあうことで、スムーズな事業実施につなげる。

### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・定期的なスタッフ会議や三者（センター、法人、区）連絡会の開催により、スムーズな情報共有と顔の見える関係性ができ、センター運営全般における方向性についても共有することができた。
- ・3年ぶりにリアル開催となったとつかお結び広場は、準備、運営を協力して行うことができた。協働事業を進めるうえで大事なポイントである、お互いに協力する関係性が築けている。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・協働事業を推進するうえで、お互いの立場を尊重し協力し合える関係を引き続き構築していく必要がある。

### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設運営が徐々に平常時に戻ってきた。些細なことでも気になる点は情報共有し、共に考えることで混乱することなく運営することができた。
- ・ICT 事業では、スマホのひろば、スマホワンポイントアドバイスなどを定期的に開催することで、協力団体とのパートナーシップがさらに築かれた。これにより、次年度に向け居場所づくりを兼ねたスマホの学び場を協力して運営することになった。
- ・とつかお結び広場では、区の協力のもと著名な講師を招き、多くの来場者を迎え、地域活動への関心を広げることができた。
- ・戸塚区地域施設間連携促進事業では、顔の見える関係ができ、様々な場面で協力し合える関係性ができてきた。それにより、地域ケアプラザ、スポーツセンター、さくらプラザが協力しキャンドルナイトを実施することになった。その他、東戸塚エリアの多世代地域交流食堂立ち上げにおいて、地区センターと区民活動センターが情報共有しながら連携するなど、協力体制ができてきている。また、次年度に向け、子育て拠点が実施するイベントに、スポーツセンター、区民活動センターが協力するなど、広く連携の輪が広がってきている。